

日本ジオパークネットワーク 再認定審査について

日本ジオパーク委員会（JGC）による、洞爺湖有珠山ジオパークの日本ジオパーク再審査が、8月17日～19日の3日間の日程で実施されました。現地審査員として、産業技術総合研究所の渡辺真人氏をはじめとして、JGCにより委嘱された審査員3名が来訪し、来年6～8月に予定されている、ユネスコ世界ジオパークの再審査に向け、前回の審査で受けた指摘事項の進捗状況を中心に確認しました。

なお、本現地審査の報告に基づいて、9月20日（木）に開催される、JGCの会議において、日本ジオパークとしての再認定の可否が決定されることとなっています。

《参考》 審査員による講評のコメント（要約）

日時・会場：8月19日（日）13：40～14：10

道の駅そうべつ情報館 i 2階 研修室

審査員のコメント：

○渡辺 真人氏（産業技術総合研究所統括研究主幹／ユネスコ世界ジオパーク評議会委員）

- ・課題であった常勤専門員の確保は、中長期的な視点で考えられている。このまま進めてほしい。
- ・運営計画については、改定の計画があり、このまま進めてほしい。
- ・視認性については、新たなサイン整備計画に基づいて、順調に整備が進んでいる。
- ・サイトの保全については、断層の保全と活用は問題ないが、遺構と植生の関係は、現地の意図がまだ十分に伝わっていないと感じている。災害遺構の保全のあり方は、何が正しいという事はない。この地域の基本方針を明確化し、意義、メリット、デメリット含め整理し伝えてほしい。
- ・いくつか拠点施設的なものがあるが、ジオパーク全体を紹介している施設がない。多くの人が最初に訪れる場所としては、ビジターセンター（VC）がよい。もちろん、VCは国立公園のものであるが、環境省と連携し、範囲をひろげ、ジオパーク全体を紹介していただける施設になることが望まれる。
- ・アイヌ民族の言語の保護と紹介は、絵本を作成する計画を説明いただいた。しっかり調査から始めているので、来年の審査に完成が間に合わなくても良い。経過を説明できれば大丈夫と思う。
- ・洞爺湖有珠山は、防災/火山教育では国際的に大きな成果を果たしてきた地域だということは、間違いない。その中で、ジオパークの国際連携について厳しく求められる理由は、ジオパークの組織がまだまだ脆弱なため、その運営の仕事を手伝ってほしいというのが一つ。また、認定されたジオパーク地域間で協力を進めてほしいというのがもう一つ。中国のある地域から連携の打診があったと聞いているので、進めていただきたい。

○藁谷 哲也氏（日本大学文理学部教授）

- 初めての審査であり、客観的に見たが、このジオパークの中心は有珠火山であり、それはそれでよいが、伊達市のサイト、豊浦町のサイトとの連携が希薄のように感じた。縄文遺跡、他のサイトとの連携を、中心施設であるVCで紹介し、観光客を誘導する方策を取る必要性を感じた。

○鈴木 雄介氏（伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク 地球科学専門員）

- 火山教育、温泉、防災教育について私の伊豆半島と要素が同じであり、大変参考になった。
- フルタイムの専門員として実際に活動している立場であるので、その役割を述べたい。研究者というより、地域と研究者を繋ぐのが専門員の主な役目であり、研究活動は付加的な用務。
- 伊豆半島では、当初地質学者として、私が一人で担当していたが、その後、地理、自然と採用専門員の枠を増やしている。それだけ、私の地域では必要な人員と考えられている。
- 洞爺湖有珠山では火山マイスター、ジオパーク友の会などが活発に活動しており、その活動に研究者が密接に関わり啓発してきた。それは今後も続けていただきたいが、専門員は「いつでも地域におり、もう少し気軽に聞ける人」と考えていただきたい。VCには、夏休みに大勢の子ども達が来ているが、疑問に思ったことを、聞けば何でも教えてくれる専門員がいることで、VCの機能が充実する。そのため、専門員は一般のお客様と顔を合わせられるような場所で勤務できると良い。
- 豊浦のサイトも魅力的、世界遺産候補の縄文遺跡も、火山と要素が繋がっている。遊びに来た方にとっては同じように回りたい場所。シームレスに（境目なく）紹介するべき。

○渡辺氏

- 洞爺湖畔にすごく大勢のお客さんが来ている。豊浦のサイトも、縄文のサイトもすばらしいので、ジオパーク全体として、お客さんを回してゆく工夫をする余地があると、審査員3名とも感じている。有珠山で行われている火山教育、防災学習、火山マイスター制度など、世界のネットワークの中でも、非常に先進的な取り組みが行われており、手本になる地域である。昨年の世界審査では、厳しい評価を受けているが、専門員がいれば、展示の充実や、全域の魅力の紹介が進み、もっと素晴らしいジオパークになる、という感覚を審査員に持たれたのではないかと思う。
- 来年の審査に向け、心配することはない。今やっている良い部分を伸ばしてほしい。事務局を中心とした改善の方向は間違っていない。
- 最後に、この3日間、事務局、マイスターなど関係者にお世話になった。おもてなしに感謝する。